

2025年4月4日

立教大学国際学術研究交流制度
2025年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	異文化コミュニケーション学部・特別専任教授
氏名	細井尚子
派遣機関名	Department of Drama and Theatre, National Taiwan University 所在国：台湾
研究テーマ	台湾の興行財における大衆性と芸術性の相剋と相生
派遣期間	2026年2月21日～2026年3月23日（31日間）
研究経費	653,260円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2025/2/21 2/22～3/22	離日 協力者・関係者挨拶及び情報交換、テーマ関連資料収集： 対象：台湾大学、台北芸術大学、清華大学の研究者、台北木偶劇団、 豫劇団、奇巧劇団等上演団体ほか。 観劇：実験的演劇（3/6）、土地廟における歌仔戲（3/8）、京劇 （3/20-21）、児童劇（3/22）
3/14-15	左営・豫劇団：劇団施設見学、公演計画、台湾の国立劇団としての状 況、新作・改編作、芸術祭等参加演目など演目制作における芸術性・ 大衆性の問題等に関する聞き取り調査、資料収集。 左営・奇巧劇団：新作・改編作、芸術祭等参加演目など演目制作にお ける芸術性・大衆性の問題等に関する聞き取り調査、資料収集。
3/16	講演「變動不息的力量-歌舞伎變容的邏輯-」（国立台北芸術大学・伝 統音楽学系）対象：学生・大学院生・教員・研究者
3/17	講演「不是現代化，而是現代性-歌舞伎的同時代性結構-」（国立台湾 大学・演劇学科「台湾大学核心研究群計画-劇場性的理論与实践：過 去・現在与未来」補助計画）対象：学生・大学院生・教員・研究者
3/23	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

25年度派遣研究員申請後、24年度の研究活動で抽出された興行財（商業演劇—上演に関わる施設、付帯サービスなども含む）における大衆性と芸術性（大衆性とは多数の観客を前提とし公演収入によって維持される上演の特性を指し、芸術性とは観客を限定した上演において「研究」「実験」などの語で評価されてきた特性を指す）の相剋と相生について、日本を事例に検討し、11月に台湾・台北芸術大学で開催された国際シンポジウム「『笑いと涙が織りなす世界 東アジア大衆的上演文化の複数史観/笑涙交織：東亞大眾演劇的複数史観』」で発表して、頂いたコメントや質問を反映した改稿論文「興行財における大衆性と芸術性の相剋と相生—新派と文学座の『華岡青洲の妻』を例に—/興行財中大衆性與藝術性的相剋與相生—以新派與文學座之《華岡青洲之妻》為例—」は論文集（シンポジウムと同タイトル）に収録、本学リポジトリで公開（25年3月末公開予定）。日本を事例にしたこの論文では、大衆性と芸術性の相剋は、とりわけ上演活動の持続を支える経済的側面において顕著に現れ、その相生は舞台上で何をどのように演じるかという実践の次元において実現されることが分かった。このような問題は上演を取り巻く制度的・社会的条件とも関わるが、日本においては主として上演実践の次元において顕在化したといえる。このような構造は、異なる制度的・社会的文脈のもとで、別様のかたちをとりうるかという視点から、派遣研究員期間は「台湾の興行財における大衆性と芸術性の相剋と相生」に関する資料の収集に当たった。

近代台湾演劇史において、及び台湾の演劇研究者群との研究交流より、日本の事例のように西洋演劇を移入し、上演して観客に提供する際に、大衆性・芸術性の問題が顕在化することはなかったこと（西洋演劇移入が日本・中国—日本経由—であり、その時点ですでに政治色と大衆性を帯びていたこと、またその影響力の限界性が非常に高く、既存の大衆的上演文化との軋轢が弱かったなどが原因として考えられる）ことが確認されたため、1980年代の小劇場の移入、及び1980年代後半からの文化政策の転換（それまで否定していた台湾文化を認知、発見、承認、継承など）による上演文化に対する国・地方自治体の各種補助、多様な芸術祭に焦点を置き、資料収集を行った。

・小劇場移入期に関しては、関連資料収集及び実際に参与した方2名に簡単な聞き取りを行った。誕生当初は観客が受容できるかという視点より、制作側が表現したいもの・表現方法に重点があった点、反商業的・反既存上演制度といった属性の点では、前述した日本の場合の芸術性に偏重した演劇群に類似する面があるが、興行財として捉えるには十分な条件を具していなかった。また、90年代には文化政策による助成依存型や芸術祭参加に移行するため、小劇場のみを単独で取り上げるのは妥当ではなく、台湾新劇史の文脈で把握すべきであること、後述する文化政策・補助・芸術祭をキーワードとする社会・政治体制の中で捉えるべきことを確認した。

・文化政策転換関連では、1980年代後半の文化政策関連の資料のほか、①補助を受けた上演に対する研究者・専門家の関わり方について、実際に参与されている研究者（台湾大学、台北芸術大学の研究者）に具体的に伺った。特に、芸術祭以外の公演での参与（アドバイス、評価）の具体的な視点や基準は参考になったが、評価者個々の基準であり、統一基準がないこと、また評価対象の上演に対し、評価者の人数が限られているために、異なるジャンルの研究者による評価も行われるなど、この制度における問題点も把握することができた（この点は芸術祭のキュレーターに関する調査に延伸）。

また、文化政策の下で設立された国公立劇場の設置目的から、国家が上演文化における大衆性・芸術性をどのように捉えているかについて検討が可能であると思われ、資料を収集しつつ初歩

的分析を行い、台湾の文化政策における大衆性・芸術性の相剋は制度間の配置と運用の中で調整され、その相生もまた複数のレベルにおいて実現される構造として把握可能であるという仮説を得るに至った。26年10月に台湾大学が主催する国際シンポジウム「在場：劇場的過去、現在與未來（在場：劇場における過去、現在、未來）」の発表者公募に、この国公立劇場を通じた分析となる「在場的結構：臺灣上演文化中的大衆性與藝術性（在場の構造——台湾の上演文化における大衆性と芸術性）」で応募し、審査を通過したため、10月に発表と論文執筆を行う。

・各種芸術祭に関しては、国レベル、地方政府レベルで多様なものがあり、なかでも芸術祭のテーマ、キュレーターの構想が設定されている場合に応募する上演団体側、キュレーター側双方から具体的な情報を収集した。台湾では多様な芸術祭があるため、全体像を把握した上での分析が必要であるが、申請者は特に「戯曲夢工場」（2016年～）に注目している。これは、伝統的な上演文化を現代的に再活性化することを目指し、若手育成・実験性・伝統的形式の再解釈・上演制度再考・観客との関係性などの枠組みを有するが、企画書審査の結果採用された上演団体に対し、専門家・異ジャンルの人材を指定して協力・連携するよう求める。また、毎年キュレータが交代するため、更新し続ける芸術祭の1つである。申請者も22年の「戯曲夢工場」で台北木偶劇団の『奥賽羅（オセロ）』（布袋戲がオセロの脳内・記憶・内心を表現し、京劇の演者がオセロの「今」を表現）の戯曲顧問を担当したが、非常に実験性が高く、形式的な面における革新性は評価された。この「戯曲夢工場」の参加作品は、前述した大衆性よりも芸術性に比重が置かれる傾向があり、大衆性・芸術性を考える上で、重要な芸術祭の1つと言える。しかし現時点では、「戯曲夢工場」という芸術祭に対する評価は台湾でも多様であり、今後、少なくとも数年の観察は必要であり、多様な芸術祭の関連資料を収集し、全体像を把握した上での分析が必要であるという認識を得た。



写真左より、奇巧劇団劉建幗氏、豫劇団王海玲氏、劉建華氏

不是現代化，而是現代性—歌舞伎的同時代性結構

講者：細井尚子（日本立教大學教授）

主持人：林智莉（臺灣大學戲劇學系副教授兼主任）

時間：3月17日(二) 10:20-12:10

地點：戲劇系館210教室

臺大核心研究群計畫--劇場性的理論與實踐：過去、現在與未來」補助



台湾大学での講演状況



台北芸術大学での講演状況